

ユ-グレナ 

いきる、たのしむ、サステナブル。

CORPORATE PROFILE



気候変動の解決

豊かな海の環境を守る

食料危機の解決

陸・海・空で
バイオ燃料が当たり前になる

貧困の撲滅

多様性が尊重された世界

サステナブルな農業の実現

石油に頼らない暮らし

栄養問題に終止符をうつ

健康寿命の延伸

既存のインフラを活かした
サステナブルな生活

全世界に広がる
ユーグレナGENKIプログラム

誰もが自信をもって
自分らしくウェルエイジング

ユーグレナが描く未来予想図

私たちは、サステナビリティが当たり前となる社会を実現するために、「Sustainability First」をユーグレナ・フィロソフィーに掲げ、多くの仲間と協力しながら走り続けています。

INDEX

P01 ユーグレナが描く未来予想図

P03 フィロソフィー

P04 ユーグレナ HISTORY

P06 微細藻類ユーグレナとは

ユーグレナがもつ豊富な栄養素
ユーグレナの活用

P09 ユーグレナ社が取り組む
4つの領域

ヘルスケア
バイオ燃料
ソーシャルビジネス
バイオインフォマティクス

P17 CFO (最高未来責任者)

P18 八重山地域との共生

みーふあいゆープロジェクト
ユーグレナ・ガーデン
ユーグレナ石垣ぬちぐすいプロジェクト

P19 代表メッセージ

P22 企業情報

グループ会社
拠点
沿革
会社概要

ユーグレナ・フィロソフィー

Sustainability First (サステナビリティ・ファースト)

パーパス

人と地球を健康にする

ユーグレナロゴ タグライン

いきる、たのしむ、サステナブル。

ユーグレナ HISTORY

私たちがこれまで歩んできた数々の軌跡と、どのように進化し続けてきたのかをご紹介します。



1998

夏

**創業者出雲、バングラデシュを訪問
ビジネスでの社会問題解決を決意**

創業者出雲がバングラデシュの栄養問題を目の当たりにし、大きな衝撃を受けたことをきっかけに、ビジネスでの社会問題解決を決意。

2005

8月 **株式会社ユーグレナ創業**

12月 **石垣島にて、世界初微細藻類ユーグレナの
食用屋外大量培養に成功**

ユーグレナは栄養価が高く、食物連鎖の最下層に
いるため、他の生物のエサとなり、屋外での大量
培養は困難だった。そこで発想を転換し、ユー
グレナしか生存できない培養環境を研究開発し
たことで大量培養を実現、事業化につながった。
現在も、当時と同じ石垣島で培養。

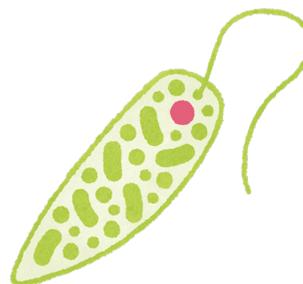
2009

11月



**日本科学未来館で
「ミドリムシクッキー」発売**

日本科学未来館で開催した「おいしく、食べるの科学展」の「未来の食」コーナーで、微細藻類ユーグレナを使ったミドリムシクッキーを販売。



2012

2014

12月 **東証マザーズに上場
(2014年12月に東証プライムに市場変更)**



4月 **ユーグレナGENKI
プログラム開始**

栄養問題に苦しむ世界の子どもたちに、ユーグレナクッキーを届ける活動を開始。

6月 **いすゞ自動車株式会社との
共同研究契約を締結**

次世代バイオディーゼルの実用化に向け、Deusel®プロジェクトを開始

2018

2019

2020

2021

2月

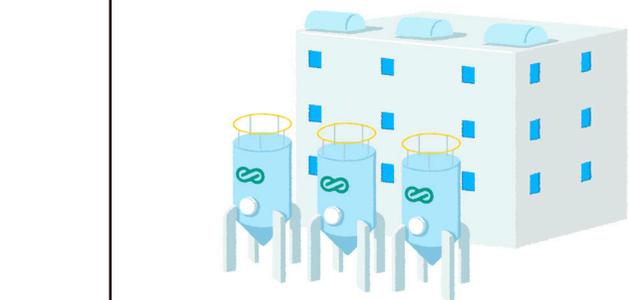
**日本企業として初めて
国連世界食糧計画(WFP)と事業連携**

緑豆(りよくとう)栽培事業「緑豆プロジェクト」を通じて、バングラデシュの小規模農家支援およびロヒンギャ難民への食料支援を推進。その活動実績が評価され、日本企業として初めて、WFPの事業連携パートナーとして採択。

10月

**CFO(Chief Future Officer: 最高未来責任者)
誕生**

未来を生きる当事者である将来世代も経営の議論に参加していくべきと考え、会社と社会の未来を変えていく取り組みを主導する18歳以下のCFOとFutureサミットメンバーを選出。



10月

**日本初のバイオジェット・ディーゼル燃料
製造実証プラント完成**

化石燃料に代わる、サステナブルな社会を実現するための燃料「サステオ」の製造実証プラントが完成。2019年春より本格稼働。

8月

CIをSustainability Firstへ刷新

創業15周年を機に、CI(コーポレート・アイデンティティ)を刷新。コーポレートロゴを親しみやすいカタカナ表記にし、新たにユーグレナ・フィロソフィーとして「Sustainability First(サステナビリティ・ファースト)」を掲げる。



6月

**ユーグレナ社のバイオ燃料「サステオ」を
使用した初フライトを実現**

ユーグレナ社が開発したバイオ燃料サステオのジェット燃料を使用し、国土交通省航空局が保有・運用する飛行検査機のフライト・飛行検査業務を実施。政府機関の航空機で国産のバイオジェット燃料を使うのは日本初。また、プライベートジェット機「HondaJet Elite」でもサステオのジェット燃料を使用したフライトを実施。民間航空機で初のサステオフライトが実現。



8月

**定款上の事業目的をSDGsの
17の目標を反映した内容に全面刷新**

「会社の憲法」とも言われる定款(ていかん)において、ユーグレナ・フィロソフィー「Sustainability First」の実効性を法的側面からも高めるために、定款上の事業目的に「持続可能な社会の実現を目指す」ことを明記し、SDGsの17の目標を反映した内容に全面刷新。



微細藻類

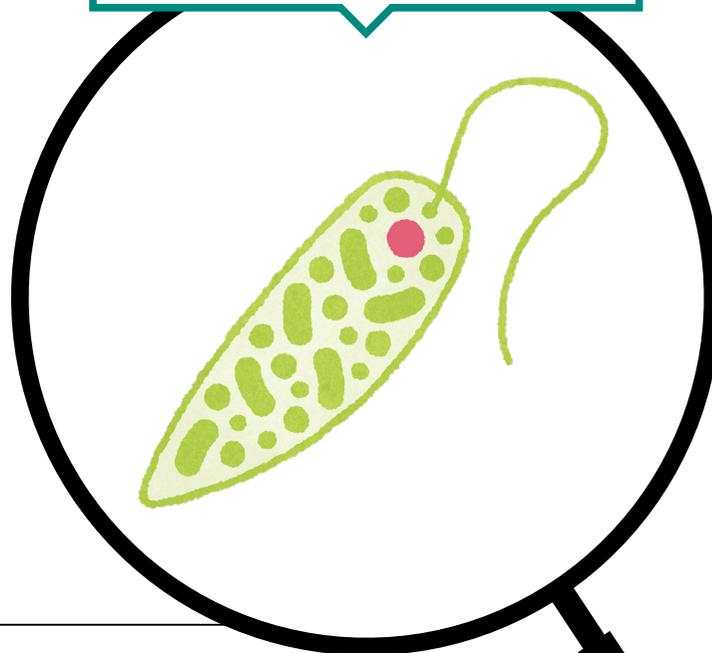
ユーグレナとは

ユーグレナ社では、微細藻類ユーグレナ(和名:ミドリムシ)をはじめとするバイオテクノロジーの力で、Sustainability Firstを実現するために日々研究を進めています。ここでは、創業のきっかけとなったユーグレナについてご紹介します。

ギリシャ語で美しい(eu)眼(glena)という意味を持つユーグレナのサイズは、体長わずか0.05mm-0.1mm。鞭毛(べんもう)を使って動くことができます。

動物と植物、両方の特性を併せ持つ生物

約5億年前の太古の時代に、ユーグレナの仲間が誕生したと言われています。和名ではミドリムシと「ムシ」がつくために混同されがちですが、ムシではなく、ワカメやコンブと同じ「藻」の仲間です。その太古の生物であるユーグレナは、光合成を行いながら、光を求めて動き回ることもでき、動物と植物の両方の特性を持つ、生物学上非常に珍しい生物です。光合成によって成長するユーグレナは、水とCO₂があればどこでも育ち、大気中の約1,000倍のCO₂濃度の環境でも元気に育つことが知られています。



ユーグレナを活用したバイオマスの5F

生物資源であるバイオマスには、重量単価が高い順にFood(食料)、Fiber(繊維)、Feed(飼料)、Fertilizer(肥料)、Fuel(燃料)の5つの用途があります。ユーグレナ社はユーグレナ培養技術のさらなる向上・開発によって、重量単価の高いものから低いものへ順次事業を展開し、バイオマスの可能性の拡大、事業化を推進しています。



石垣島ユーグレナ

ユーグレナ社が沖縄県石垣島で培養している「石垣島ユーグレナ」は、現代人の栄養不足や栄養バランスの乱れを解決する一助となる健康食材として期待されています。また、すべての方に安心して利用いただけるよう、種々の認証を受けています。



ユーグレナがもつ 豊富な栄養素

微細藻類ユーグレナの豊富な栄養素は、現代人の抱える「つくる(栄養不足)・はたらく(疲労)・まもる(免疫低下)」の課題にアプローチし、すべての人が健やかに暮らせる世界を目指しています。

01

59種類の 豊富な栄養素を含有

「石垣島ユーグレナ」には、ビタミンやミネラル、アミノ酸に加え、DHA、EPAといった不飽和脂肪酸等、59種類の栄養素が含まれています。



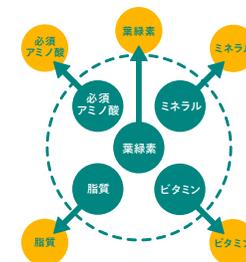
※石垣島ユーグレナに含まれる栄養素

02

栄養の消化吸収率93.1%

人間は細胞壁を分解する酵素を持たないため、細胞壁があると栄養素の消化効率が落ちますが、ユーグレナは細胞壁がないため、消化吸収率は93.1%※と、非常に高くなっています。

石垣島ユーグレナ



吸収を妨げる細胞壁がないため
栄養素を消化吸収しやすい

※出典:農芸化学会誌第51巻第85号P483~488(1977)Euglena gracilis
タンパク質の人工消化実験およびネズミ飼育実験による栄養価の決定

03

特有成分「パラミロン」

ユーグレナには、他の生物にはない特有成分「パラミロン」が多く含まれています。パラミロンはβ-1,3-グルカンであり、ユーグレナにとっての貯蔵多糖(エネルギー源)です。これまでの研究から、生体の健康へさまざまな働きをすることが分かっています。



提供:青山学院大学 福岡伸一教授

04

世界で初めてASC-MSC海藻(藻類)認証を取得

「ASC-MSC 海藻(藻類)認証」とは、環境と社会に配慮した責任ある養殖方法で生産された水産物に対する国際認証制度ASC(Aquaculture Stewardship Council)と、持続可能で環境に配慮した漁業で獲られた水産物を対象とする国際認証制度MSC(Marine Stewardship Council)が発行した認証です。「石垣島ユーグレナ」は、2019年1月に「ASC-MSC 海藻(藻類)認証」を世界で初めて取得しました。

ハラール食品・コーシャー認証取得

「石垣島ユーグレナ」は「イスラム教の定める適正な方法で処理された食品である」ことを証明するハラール食品認証と、ユダヤ教の食べ物に関する定めに合致したことを証明するコーシャー認証を取得しています。

ユーグレナの活用

ユーグレナ社では、バイオマスの5Fに沿った多種多様な研究開発に取り組んでいます。

01

豊富な栄養素を活用した健康食品



栄養豊富なユーグレナを配合した健康食品の開発に取り組んでいます。ユーグレナを摂取することで、「つくる(栄養不足)・はたらく(疲労)・まもる(免疫低下)」の課題にアプローチします。

02

肌を根本から健やかにする化粧品



ユーグレナがもつ効果を応用して、化粧品への活用についても研究、開発しています。化粧品の原料となるユーグレナエキスは保湿力に優れているため、本来そなわっている弾力感やみずみずしさを引き出し、ハリやうるおいのある肌へと導きます。

03

バイオ燃料の原料



日本におけるバイオ燃料黎明期より研究開発を開始し、20年4月には使用済み食用油とユーグレナ等の藻類を原料にバイオ燃料「サステオ」を完成、21年にはジェット燃料での初フライトを実現させました。バイオ燃料原料としての活用に向けて、さらなる研究を進めています。

04

飼料としても活用



ユーグレナ社では、59種類の豊富な栄養素を含むユーグレナを、家畜や養殖魚の飼料としても活用していきます。養鶏や養豚、養殖魚などにユーグレナ粉末の給餌を行うことで、うまみ成分の増加等が報告されています。

05

副産物で有機液肥を製造



ユーグレナからバイオ燃料の原料となる脂質を抽出する工程で、副産物として発生する残渣(ざんさ)を有機液肥へ活用しています。副産物であるユーグレナ脂質抽出残渣が有価物として販売可能になれば、バイオ燃料の生産工程全体でのコスト低減につながると考えています。

06

バイオマスプラスチックの開発



ユーグレナ社では、ユーグレナからバイオ燃料の原料となる脂質を抽出する工程で副産物として発生する残渣を配合したバイオマス含有度50%の「ユーグレナ・プラスチック」および、共同研究でユーグレナの特有成分「パラミロン」を使用したバイオマスプラスチック「パラレジジン®」を開発しています。

ユーグレナ社が取り組む3つの領域

人と地球を健康にするため、自分たちの幸せが誰かの幸せと共存し続けるSustainability Firstな未来を一步一步実現させていきます。

01 ヘルスケア

生涯にわたる ウェルビーイング

59種類の豊富な栄養素を含む微細藻類ユーグレナをはじめとするさまざまな素材、テクノロジーを駆使してからだの内・外から個々が輝くウェルビーイングをサポートします。



02 バイオ燃料

カーボンニュートラル社会 の実現

地球の未来のためにできることを考えて開発した「サステオ」。バイオ燃料が当たり前の社会となり、地球と共存するエネルギーの時代へ向け、私たちは走り続けます。



03 新規領域

ソーシャルビジネス

創業のきっかけは、社長の出雲が学生時代に訪れたバングラデシュで、栄養不足に悩む子どもたちを目の当たりにしたことでした。世界中の人を健康にするため、わたしたちは活動を続けます。

バイオインフォマティクス

最新のバイオテクノロジーを駆使して、個々の遺伝子を解析。遺伝子データに基づいた、「自分のからだと向き合い、未来の自分を健康にすること」を目指しています。

アグリテック

これまでの研究結果をベースに、藻類資材を活用した肥料事業を展開。ユーグレナ社の強みであるバイオテクノロジーを梃子(てこ)にして、「未利用資源を活用した循環型農業」を実現していきます。

ヘルスケア

ユーグレナ社では、生涯にわたるウェルビーイングの実現のため、からだの基盤作りに着目。部分的な対症療法ではない、サステナブルな健康ヘアプローチする商品をお届けしています。

自社ブランド

微細藻類ユーグレナをはじめとする独自素材を使用した食品、サプリメント、化粧品等の販売を行っています。健康寿命の延伸と心身の健康を美・食両面で支えるため、直接お客さまが購入できる自社ECサイトや専門販売店等、幅広い流通チャンネルに商品を展開しています。



海外展開

微細藻類ユーグレナやクロレラを「食品原料」として、グローバルに販売しています。国際標準化機構が発行するFSSC22000（品質と安全性の国際規格）を取得し、世界20カ国以上に高品質な機能性原料を輸出しています。



OEM(受託製造)

石垣島ユーグレナ・ヤエヤマクロレラ・カラハリスイカ・ミドリ麹を使用した商品の受託製造を行っています。企業間コラボレーションを通じて生み出される、いままでにない付加価値を持った商品を社会にお届けすることが使命です。



シナジー 販路

ユーグレナ社では、Sustainability Firstを最速で実現させるために協働した、グループ仲間※の一部商品を取り扱っています。今後もグループシナジーの最大化に向けて協力していきます。

※ユーグレナ・グループでは、同じ志を持った社員、グループ企業のことを「仲間」と呼んでいます



ユーグレナ以外の展開素材

(ユーグレナについては6ページをご覧ください)



ヤエヤマクロレラ

クロレラはユーグレナと同様に藻の一種で、ユーグレナ社が取り扱うヤエヤマクロレラは沖縄県石垣島の豊かな自然のなかで培養されています。9種類の必須アミノ酸のすべてをバランスよく含有しているため、アミノ酸を効率よく摂取することができ、他にも豊富な栄養素が含まれています。また、ASC-MSC海藻(藻類)認証、ハラール認証、コーシャー認証を取得しています。



カラハリスイカ

カラハリスイカとは、アフリカ南部のカラハリ砂漠を原産地とするスイカの一種で、保水力に優れ、極めて腐りにくく乾きにくいという特質を持つ、「奇跡のスイカ」と呼ばれています。ユーグレナ社ではカラハリスイカを国内にて栽培、原料加工を行い、カラハリスイカのポテンシャルを活かしたサプリメントや化粧品などの開発を行っています。



ミドリ麹こうじ

ミドリ麹は、微細藻類ユーグレナと日本の国菌とも言われる麹菌から開発されたユーグレナ社の自然素材で、これまでにない新たな原料として特許を取得しています。

一般的な麹と比べて「高い酵素力価」と「エルゴチオニン高含有」を特徴とし、新たな機能性食材としての活用が期待されています。

ヘルスケア事業を支える機能性研究

ユーグレナ社は、現代人が抱える健康不安は“複合的な要因”によって生じていることに着目しました。特に、「栄養不足」、「疲労(ストレスや睡眠の質低下等)」、「免疫力低下」は、相互に影響をおよぼしあい、連鎖的に体調の悪化を招いてしまう可能性が高いと考え、日夜研究に取り組んでいます。最近の研究では、微細藻類ユーグレナの特有成分「ユーグレナグラシリス由来パラミロン(β -1,3-グルカンとして)」を機能性関与成分とした2つの機能性「作業時の一時的なストレス(イライラ感、緊張感)の緩和」、「睡眠の質の改善」に関する機能性表示食品について消費者庁への届出を行い、2021年8月17日に受理、公表されました。これにより、「ユーグレナグラシリス由来パラミロン」を機能性関与成分としたダブル機能性「イライラ感、緊張感の緩和」、「睡眠の質の改善」の表示が可能になりました。



研究コラム

「バイオテクノロジーで昨日の不可能を今日可能にする」をビジョンに研究を進めてきたユーグレナ社。バイオテクノロジーの輪をさらに広げ、社会実装するための研究開発を行っています。

バイオテクノロジーを先導する研究体制

ユーグレナ社は、2005年に世界で初めて微細藻類ユーグレナの食用屋外大量培養に成功して以来、日本のバイオテクノロジーの発展に貢献すべく、さまざまな研究開発を推進してきました。大学や省庁をはじめとする複数の機関、民間企業との協力体制を築きながら、ユーグレナや他の藻類が持つさまざまな可能性の追求と新しい技術の社会実装に挑戦しています。気候変動や食料危機、資源の枯渇、自然災害等、人と地球が直面する課題を解決するために、これまでの研究で蓄積してきた知見を駆使し、Sustainability Firstな未来に向かって探求を続けています。また、近年現実味を帯びてきた“宇宙で暮らす時代”を見据えた研究もすでに始まっています。ユーグレナ社が人と地球の未来にどのように貢献できるのか、サステナブルな価値観に基づいて進めていきます。

生産技術

微細藻類ユーグレナの屋外大量培養技術を確立して以来、2017年には年間最大160tも生産できるほどに体制を整えました。現在では、生産量だけでなく、より味や香りの良いユーグレナを高効率的に生産することを目指し、日々研究開発を進めています。さらに、藻類バイオ燃料の製造コスト低減に向けて、2017年には三重県多気町に1基約1,000㎡以上の世界初のあぜ型微細藻類培養プールを建設し、隣接の木質バイオマス発電所が排出するCO₂を培養に活用する等の研究に取り組んでいます。



先端技術研究

肥料

ユーグレナ社は2021年4月、佐賀市に研究用農地「サステナブルテック・ファーム」を開設しました。ここでは、これまで開発してきた微細藻類ユーグレナから製造したユーグレナ液体肥料やユーグレナ培養土に続き、佐賀市と共同で行っていた下水中の未利用資源を活用したユーグレナの培養研究成果をベースに、ユーグレナを肥料として農作物生育に活用することで、資源循環型農業の実現を目指します。

飼料

未利用資源の活用や微細藻類ユーグレナをタンパク質源とする飼料の研究開発にも取り組んでいます。養殖飼料のタンパク質源は主に魚粉が使用されています。しかし、サステナブルな養殖業の発展のためには、飼料の魚粉依存を改善し、水産資源に依拠しない代替タンパク質での養殖実現が急務となっています。2019年3月に、一般的な飼料よりも、魚粉使用量を低減したユーグレナ配合の養殖用飼料の開発に成功しました。この飼料で育成した三重県多気町の陸上養殖サーモンは、旨味成分の上昇もみられ、環境負荷を軽減したサステナブルな養殖への貢献が期待されています。

バイオマスプラスチック

ユーグレナ社では、微細藻類ユーグレナからバイオ燃料の原料となる脂質を抽出する工程で副産物として発生する残渣を配合したバイオマス含有度50%の「ユーグレナ・プラスチック」を開発しました。また、ユーグレナの特有成分、β-1,3-グルカンである「パラミロン」を使用した、バイオマス含有度100%での製造が可能な「パラレジン®」の開発を共同で進めています。

バイオ燃料

温室効果ガス排出量の増加によって、刻々と進む地球温暖化や気候変動のなか、ユーグレナ社は子どもたちやその先の世代の未来を守るエネルギーとして、サステナブルな燃料の研究・開発・製造に取り組んでいます。

気候変動に立ち向かうために

現在、地球温暖化の原因のひとつとされるCO₂の大気中濃度が過去80万年間において前例のない水準まで高まっています。地球温暖化による気温上昇の影響により、干ばつや大雨、洪水等の気候変動が引き起こされ、水不足や農作物の不作による食料不足、熱波による死亡や疾病、生物多様性への影響等、世界中に甚大な被害をおよぼしつつあります。

地球温暖化を解決するためには、温室効果ガスの削減が急務であり、そのひとつの手段として「バイオ燃料」が挙げられます。

世界における年間CO₂排出量

エネルギーおよびセメントの生産を目的とした化石燃料燃焼によるCO₂の排出量(土地利用変化除く)



出典: グローバルカーボンプロジェクト

注: CO₂排出量は生産ベースで測定されており、取引された商品に含まれる排出量は考慮されていません。
OurWorldInData.org/co2-and-other-greenhouse-gas-emissions/ CC BY

ユーグレナ社が供給する バイオ燃料「サステオ」

ユーグレナ社では、使用済み食用油や微細藻類ユーグレナをはじめとする藻類等を原料としたバイオ燃料「サステオ」を製造・調達・販売しています。バイオ燃料の原料となるバイオマスにはさまざまな種類がありますが、サトウキビやとうもろこしといった植物は、食料生産との競合や、無理な栽培による森林破壊等の問題につながる恐れがあります。ユーグレナ社では、複数のサステナブルなバイオマス原料のなかから、その時々適切なものを選択し、サステオの製造を続けていきます。

「サステオ」＝ サステオブルなオイル

サステオは、化石由来燃料の代替として使用できるバイオ燃料です。燃料の燃焼段階では、化石燃料と同様にCO₂を排出しますが、使用済みの食用油の原材料である植物も、微細藻類ユーグレナも、成長過程で光合成によってCO₂を吸収します。そのため、燃料を使用した際のCO₂の排出量が実質的にはプラスマイナスゼロとなり、カーボンニュートラル社会の実現に貢献すると期待されています。

サステオのジェット燃料

サステオのジェット燃料は、「ASTM D7566 Annex6規格(国際的な標準化・規格設定機関であるASTM Internationalが定めるバイオジェット燃料の製造に関する規格)」に適合したバイオジェット燃料です。ユーグレナ社のバイオ燃料製造実証プラントでは、バイオ燃料アイソコンバージョンプロセス技術を採用。同技術が取得したASTM認証に適合したバイオジェット燃料は世界初。なお、サステオのジェット燃料は既存石油系ジェット燃料へ最大50%混合可能です。



サステオの次世代バイオディーゼル燃料

サステオの次世代バイオディーゼル燃料はバスや船舶など多様なモビリティに活用されています。分子構造が化石由来の軽油と同じであることから、軽油代替として使用することができます。また、車両や設備に変更を加える必要がなく、既存のインフラをそのまま活用できることもメリットのひとつです。



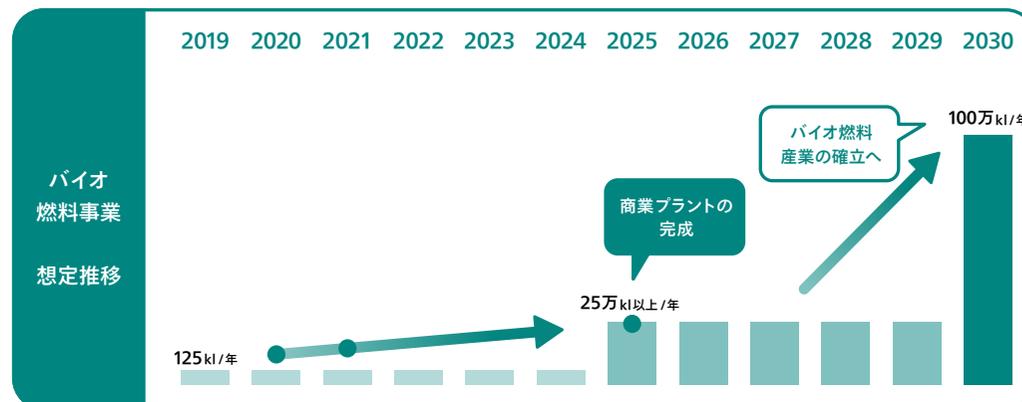
商業化に向けての取り組み

ユーグレナ社は、2018年10月に神奈川県横浜市に日本初のバイオ燃料製造実証プラントを竣工して以来、日本をバイオ燃料の先進国にするという目標のもと、継続して製造を続けています。

2022年には、ユーグレナ社、PETRONAS、Eniの3社で、マレーシアにおけるバイオ燃料製造プラント建設・運営プロジェクトの共同検討を始めました。

2025年を目標とした大規模商業プラントの完成と、バイオ燃料を身近な存在として皆さまにお使いいただける未来に向けて、計画を進めています。

日本のバイオ燃料産業確立に向け、これからも一歩ずつあゆみを進めていきます。



ソーシャルビジネス

ユーグレナ社の創業は、社長出雲が学生時代に訪れたバングラデシュで、栄養失調に苦しむ子どもたちを目の当たりにし、栄養問題を解決したいという決意から始まりました。その決意を基盤に私たちの活動は続きます。

ユーグレナGENKIプログラム

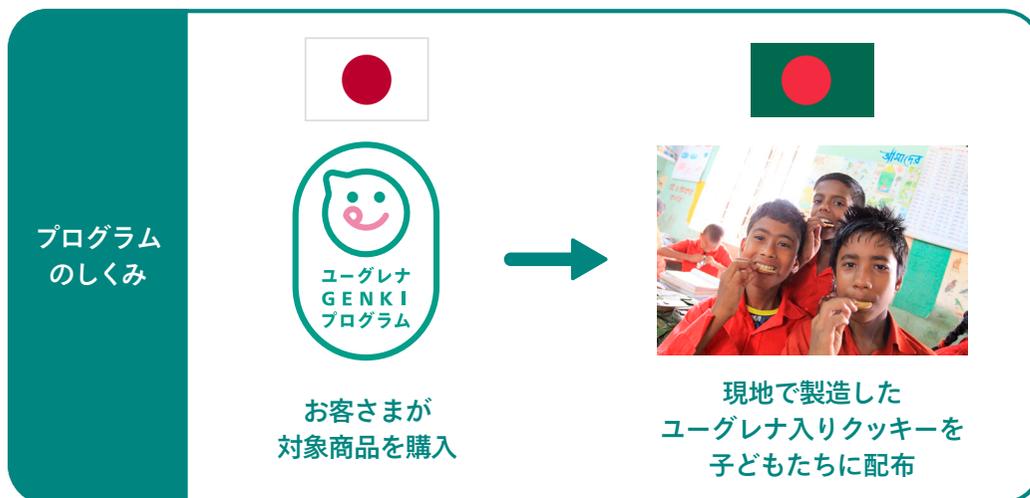
栄養問題解決に向け、売上の一部で ユーグレナクッキーをバングラデシュの子どもたちに

「ユーグレナGENKIプログラム」は、売上の一部を使って、栄養豊富なユーグレナ入りクッキーを、バングラデシュの子どもたちに無償で配布する活動です。ユーグレナ社およびグループ仲間の全商品、ならびにパートナー企業の指定商品の売上から活動費に充てています。2022年12月末時点で、ユーグレナクッキーの配布数は1,500万食を突破しました。

通常時は、プログラム対象校の子どもたちに毎日配布していますが、特別な支援が求められる事態においては、臨機応変に対応してきました。2017年12月、ミャンマーから避難してきたロヒンギャ難民がバングラデシュで増え始めた頃、仲間

の自発的な意志に基づき、ユーグレナ社は20万食の特別仕様のユーグレナクッキーをロヒンギャ難民キャンプへ届けました。また、新型コロナウイルス感染症によるロックダウン(都市封鎖)の影響で、食料の不足や価格高騰により、食へのアクセスが困難となったスラム街の住民に向けて、ユーグレナクッキー40万食を無償配布しました。

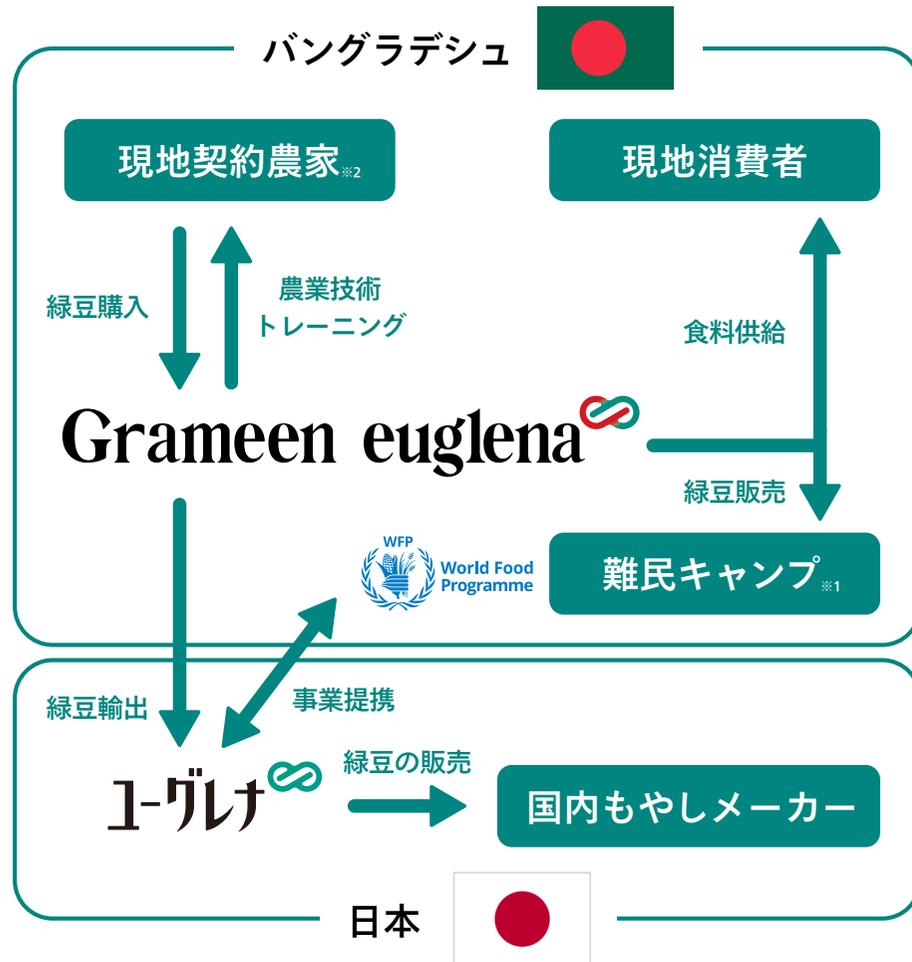
ユーグレナGENKIプログラムは、いかなる事態にも臨機応変に対応し、バングラデシュの栄養問題解決を目指した取り組みを継続していきます。



グラミンユーグレナ

人と地球のサステナブルな発展を目指す

バングラデシュ人初のノーベル平和賞に輝いたムハマド・ユヌス博士率いるグラミングループとユーグレナ社が、バングラデシュで貧困に苦しむ農村地区の所得向上や生活改善を目的に運営する現地合弁企業が「グラミンユーグレナ」です。



※1 緑豆は国連WFPの契約業者ネットワークを通じ難民に提供されます ※2 グラミンユーグレナの契約農家の能力向上に国連WFPの協力を得ています 国連WFPはいかなる製品・サービスも推奨しません

緑豆プロジェクト

Win-winな関係構築による、 持続可能なソーシャルビジネス

グラミンユーグレナがソーシャルビジネスの第一歩として取り組むのが、「緑豆(りよくとう)プロジェクト」。現地農家と緑豆の契約栽培をすることで、技術指導や高価格買取といった農家への利益を創出します。緑豆は、現地でもよく食べられているダルスープの材料にかかせない食材であり、同時に、日本でよく食べられているもやしの原料でもあります。日本の高度な栽培技術指導によりバングラデシュの農民が高品質な緑豆を栽培し、同国内および日本に供給するという、貧困解消と食料供給の安定化を目指すプロジェクトです。2023年度には、本プロジェクトに取り組む小規模農家の数は6,000名を越えています。これまでの実績・ノウハウが評価され、2019年には日本企業として初めて、ユーグレナ社がWFPの事業連携のパートナーとして採択されました。さらに、2022年にもWFPと2回目の事業連携に関する契約を締結しました。これからも積極的にこの取り組みを続けていきます。



Chief Future Officer

CFO (最高未来責任者)

「未来のことを決めるときに、未来を生きる当事者たちがその議論に参加していないのはおかしい」。会社として未来を持続可能な形に変えていくためには、未来を生きる当事者である世代たちも経営に参画するべきと考え、2019年に18歳以下のCFO(Chief Future Officer:最高未来責任者)のポストを設置しました。

CFOは、持続可能な未来を創っていく最高責任者として、Sustainability Firstな経営を主導する役割を担っています。

2022- 3代目CFO わたべ みどり 渡部 翠



2019-2020

おざわ きょうこ 小澤 杏子さん

提言

環境への意識の高さ、低さにかかわらず、消費者が意識せずとも、環境に配慮した行動をとれる仕組みの構築を目指す

- ・2021年中に、商品に使用する石油由来プラスチック量の50%削減を目指し、2019年には既存のペットボトル商品を廃止。2021年にはスキンケアブランド「one(ワン)」オールインワンクリームの容器を変更し、石油由来プラスチック量の最大90%減^{*1}を達成
- ・2020年11月より、三重県多気町の藻類生産実証研究施設(藻類エネルギー研究所)にて再生可能エネルギー100%電力の使用を開始

※1 容器の軽量化と本体にサトウキビ由来樹脂30%配合による



2020-2022

かわさき 川崎 レナさん

提言

会社が社会問題解決に挑戦し続けるために、アイデアや挑戦に溢れ、それを応援し続けられる文化の醸成を目指す

会社のポジティブな成長が、ステークホルダーにもポジティブな変化を与えることができると考え、社内の仲間の意識・成長に着目。仕事に対する情熱で溢れ、新しいことに挑戦することを目指すテーマ「Well-being innovation(ウェルビーイングイノベーション)」を設定し、会議運営方法、オンボーディングを支える人事方針、多様性に関するワークショップなど社内コミュニケーションを基軸とした策を複合的に実施



八重山地域との共生

石垣島に生産拠点を構える私たちにとって、八重山地域はかけがえのない場所です。事業活動を通じて、地域経済の更なる発展や観光誘致の促進、雇用の創出など八重山地域の振興への寄与を目指しています。

みーふあいゆー プロジェクト

石垣島の地域振興

ユーグレナ社では、石垣島の地域振興活動を支援する「みーふあいゆー(=ありがとう)プロジェクト」を展開しています。環境教育を目的に小・中・高校での理科実験教室を開催したり、「琉球ゴールデンキングス」のオフィシャルパートナーとしてプロバスケットボールチームを支援しています。さらに、石垣島にある日本最南端の商店街と八重山諸島の玄関口である離島ターミナルのネーミングライツの取得を通じて、八重山地域の地域振興活動にも取り組んでいます。



ユーグレナ・ガーデン

沖縄県初、ゼロ・ウェイスト認証取得

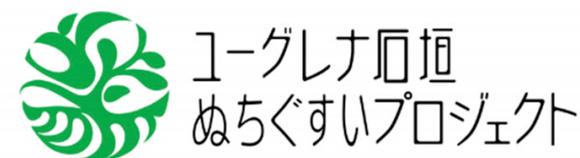
ユーグレナ・ガーデンは、ユーグレナ社が運営する直営カフェで、石垣島ユーグレナと八重山の素材を使った料理などを通じて、八重山地域の自然の豊かさを実感していただくことができます。また、CFOが策定した「環境への意識の高さ、低さにかかわらず、お客さまが意識せずとも環境に配慮した行動をとれる仕組みの構築を目指す」という方針に基づき、事業所における廃棄物削減の認証制度である、ゼロ・ウェイスト認証を沖縄県で初めて取得しました。



ユーグレナ石垣 ぬちぐすいプロジェクト

食を通じて心もからだも 元気にする

“世界一健康な島”の創造を目指して、「ユーグレナ石垣ぬちぐすいプロジェクト」を実施しています。「ぬちぐすい」とは、沖縄地方の言葉で「食や自然に触れ、心もからだも元気になる」ことを表しています。石垣島を発信源として、食を通じて心もからだも元気になることを目指し、沖縄県のさらなる地域振興に資するよう、石垣島ユーグレナを用いたメニューや食品の開発などを行い、石垣島ユーグレナおよび沖縄の特産品の魅力を広くアピールしていきます。



人と地球を健康にする Sustainability Firstな未来へ

出雲 充
代表取締役社長

永田 暁彦
取締役代表執行役員CEO

「私たちが目指すのは、 自分たちの幸せが 誰かの幸せと共存し続ける社会」

代表取締役社長

いずも みつる
出雲 充

私は、大学一年の時に目の当たりにしたバングラデシュの栄養問題を解決したいという思いで起業し、そして資源の少ない日本から新エネルギーを生み出し、人と地球を健康にするために今日まで全力投球してきました。

東証一部に上市させていただいた2014年から、バングラデシュの子どもたちに栄養豊富なユーグレナクッキーの配布を開始し、2022年には配布数1,500万食を超えました。また、10年以上の試行錯誤を繰り返し、「不可能だ」と言われていたバイオ燃料サステオでの初フライトも実現させました。

今日、私たちは社会環境が変化するスピードと複雑さが増し、想定外の出来事が次々と起こる将来予測が困難な時代を生きています。

この時代に、人と地球を健康にするために何が必要かを考えた時、「Sustainability First」にたどり着きました。



社会課題に取り組むときに、特定の問題だけが解決し、一部の誰かだけが幸せになるのは、サステナビリティとは言いません。それは単なる金融資本主義です。しかし、戦後から現代まで続いた資本主義社会の世界は2025年には終わりを迎えます。

なぜなら日本において、社会課題への関心が高いとされるミレニアル世代とZ世代が、労働人口の半分を占めるようになるからです。

欧米では既に彼らがマジョリティとなっており、何事においても彼らの意思が最重要ターゲットとなっています。

「自分たちの幸せが誰かの幸せと共存し続ける方法」こそが、ユーグレナ社が考えるサステナビリティであり、私たちが目指すゴールです。私たちはゴールに向かって、相棒である微細藻類ユーグレナ、そしてパートナー含めた仲間それぞれのプロフェッショナルリティを活かし、さまざまな方法で、着実に歩みを進め、Sustainability Firstな社会を実現します。

「社会構造に変革を起こし、 Sustainability Firstを 達成していく」

取締役代表執行役員CEO

ながた あきひこ
永田 暁彦

ベンチャーの使命は、先の見えない不確実な未来に向かって不確実性を飲み込み、誰よりも先じてリスクをとって、目標を実現するまで続けることだと考えています。それには、熱や信念が必要不可欠であり、出雲と私には「目標を実現する異常な信念」があります。

これまで私たちは、すでに兆円を超える産業と社会が確立された大海に飛び込み、ビジネスを作り出し、資金を調達し投資し、社会構造に変革を起こすための戦いをしてきました。

ベンチャーが既に確立された構造に変革を起こそうとするのは、ある種の狂気であり、異常な信念です。この熱、狂気性、異常性が、何も持たざるベンチャーでも社会を変えうる可能性を生み出し、私たちが目指すSustainability Firstな世界を作れるのだと考えます。

本質的価値は時間差でやってくることが多く、ディープレックや



ソーシャルビジネスはその最たる例です。私たちは本質的価値と社会的価値に最もギャップのある分野で変革を起こすため、今後さらに事業を加速させます。

そして、企業が持つ信念を体現するすべての基盤になるのは「人」です。人が集まれば新しい技術やお金、カルチャーが生まれ、アプローチ方法も増えます。だからこそ私たちは常に新たな仲間を求めています。

ユーグレナ社の事業拡大が、社会に蔓延るあらゆる課題縮小に直結すると確信しています。だからこそ、私たちの思いや決意を言葉で示すだけでなく、すべての意思決定が本当にその通りになっていることを、ステークホルダーの皆さまにひとつひとつ示していきます。どんなに困難でも、どれだけ時間がかかっても、登り方や着地の仕方が変わっても、目標を実現するために私たちは挑戦し続けます。

グループ会社

八重山殖産株式会社

ユーグレナ、クロレラおよびその他藻類の生産・加工・販売

ユーグレナ竹富エビ養殖株式会社

クルマエビの養殖販売

株式会社LIGUNA

スキンケア・雑貨・食品の企画開発および通信販売

株式会社フレンバシー

ECサイト・メディアの運営、食品等の販売

上海ユーグレナ

(上海悠緑那生物科技有限公司)

中国国内におけるユーグレナ等健康食品、
化粧品の自社製品およびOEM販売

リアルテックホールディングス株式会社

次世代技術の発掘、育成と、次世代技術開発型企業と
ユーグレナ社との連携促進等

株式会社ジーンクエスト

遺伝子解析サービスの提供

キューサイ株式会社

ヘルスケア商品、スキンケア商品等の製造・販売

株式会社はこ

企業のマーケティング活動の総合支援サービスの提供

株式会社エポラ

ユーグレナ、クロレラ等の健康食品等の販売

※「株式会社エポラ」「株式会社クロレラサプライ」「ヘルスン株式会社」は合併いたしました

株式会社MEJ

サプリメント・健康食品等の販売

大協肥糧株式会社

有機配合肥料の製造・販売

グラミンユーグレナ

(合併会社 euglena GG Ltd.)

バングラデシュ国内における契約農家への緑豆の栽培指導、
購入と販売および日本への緑豆輸出

拠点

本社オフィス

〒108-0014 東京都港区芝5-29-11
G-BASE 田町2階

資源サーキュラー技術研究所

〒840-0036 佐賀県佐賀市西与賀町高太郎2667
佐賀市下水浄化センター内藻類培養設備

先端科学研究所・ヒト科学研究所

〒230-0045 神奈川県横浜市鶴見区末広町1-6
横浜バイオ産業センター2階

熱帯バイオマス技術研究所 (Euglena-UTM satellite lab(EUTM))

Euglena-UTM satellite lab, MJIIT,
UTM-KL Campus, Jalan Sultan Yahya Petra,
54100 Kuala Lumpur, Malaysia.

生産技術研究所

〒907-0242 沖縄県石垣市白保287-14

福岡営業所

〒810-8588 福岡県福岡市中央区薬院1-1-1
薬院ビジネスガーデン7階

バングラデシュ事務所

Telecom Bhaban (Level-04), 53/1,
Box Nagar, Zoo Road, Mirpur-1,
Dhaka-1216, Bangladesh

沿革

- | | | | | | |
|-------------|------------|--|-------------|------------|--|
| 2005 | 8月 | 株式会社ユーグレナ設立 | 2020 | 1月 | バイオジェット燃料の製造技術の国際規格であるASTM D7566の新規格を取得 |
| | 12月 | 世界で初めて微細藻類ユーグレナの食用屋外大量培養に成功 | | 3月 | 「サステオ」の次世代バイオディーゼル燃料の販売開始 |
| 2010 | 5月 | ユーグレナからのバイオジェット燃料製造に関する他社との共同開発を開始 | | | 食品・サプリメントをリブランディング、「からだにユーグレナ」ブランドを発売 |
| 2012 | 12月 | 東京証券取引所市場マザーズに上場(証券コード:2931) | 4月 | | バングラデシュ人民共和国で実施している「緑豆プロジェクト」が国連開発計画(UNDP)が主導する「ビジネス行動要請(BcTA)」に採択 |
| 2013 | 10月 | バングラデシュ人民共和国に初の海外拠点となる事務所開設 | 8月 | | ユーグレナバイオ燃料の残渣からバイオマスプラスチックの開発に成功 |
| 2014 | 12月 | 東京証券取引所市場第一部(現プライム市場)に市場変更(証券コード:2931) | 2021 | 1月 | 米国における食品安全性に関するGRAS認証を取得 |
| 2015 | 1月 | 経済産業省第1回日本ベンチャー大賞にて「内閣総理大臣賞(日本ベンチャー大賞)」受賞 | | 3月 | サステオのジェット燃料が完成 |
| 2016 | 5月 | 油を多く産生するユーグレナ変異体を選抜する品種改良法の開発に成功 | | 6月 | サステオのジェット燃料で2回の航空機フライトを実施 |
| | 9月 | 日本最大級の燃料用培養プールを三重県多気町で建設を発表 | 8月 | | 臨時株主総会を日本初のバーチャルオンリー株主総会形式で実施。
定款上の事業目的を、SDGsを反映した内容に変更 |
| 2017 | 1月 | ユーグレナの生産体制を年産160tに倍増 | 11月 | | スーパー耐久レースにて100%サステオを給油したマツダ競技車両が3時間完走 |
| 2018 | 11月 | バイオ燃料製造実証プラントが竣工し、日本をバイオ燃料先進国にすることを
目指す「GREEN OIL JAPAN」を宣言 | 12月 | | 第5回ジャパンSDGsアワードにて「SDGs推進本部長(内閣総理大臣)賞」受賞 |
| 2019 | 2月 | 日本企業として初、国連世界食糧計画(WFP)と事業連携に関する覚書を締結 | 2022 | 5月 | 国連世界食糧計画(WFP)と2回目となる事業連携に関する契約を締結 |
| | 10月 | 東証プライム上場企業として初、10代のCFO(Chief Future Officer:最高未来責任者)就任 | | 12月 | 「ユーグレナGENKIプログラム」でのユーグレナクッキーの配布数が累計1,500
万食を超える |
| | | | 2023 | 2月 | 「サステナビリティ委員会」を設置 |
| | | | | 6月 | ESG投資の世界的指数「FTSE Blossom Japan Index」の構成銘柄に初選定 |

会社概要

設立

2005年8月9日

資本金

158億1806万円(2023年3月31日時点)

事業内容

- ・ユーグレナ等の微細藻類等の研究開発、生産
- ・ユーグレナ等の微細藻類等の食品、化粧品の製造、販売
- ・ユーグレナ等の微細藻類等のバイオ燃料技術開発、環境関連技術開発
- ・バイオテクノロジー関連ビジネスの事業開発、投資等

本社オフィス

〒108-0014
東京都港区芝5-29-11 G-BASE 田町2階